

# 学びに向かう 子どもたち

台東区立たいとうこども園

---



## 遊びを発展させていく力 ～思いを形に～

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、従来のような年中行事の実施が難しい年となる。日常保育で行っていることを、年中行事で展開したり、人前で披露する機会が少ない中、年中行事とは違った形で、こども園にて過ごした日々を子どもたちの心に残していけたらと感じるようになった。むしろ制限の多かったこの年だからこそ、1日1日積み重ねていく日常保育の大切さを改めて感じる良い機会になったのではないかな。

今年度は、自由遊びを中心に日常保育を進め、子どもたち自身が遊びを発展拡大させていく力に焦点をあててきた。子どもたちから興味関心を引き出すために保育士等がどのようにサポートし日々の保育準備を重ねてきたか、それにより子どもたちはどのように遊びを広げていったか等の過程を記録し、今後の保育の在り方を見直していきたいと考え、このテーマに決めた。

## 子どもたちの興味関心

5歳児クラスの子どもたちは、今年度行われるはずだった東京オリンピックに大きく興味関心を寄せていた。4歳児クラスであった前年も、オリンピックにちなみ世界共通のピクトグラムを作って遊んでいた程である。2020年のオリンピック開催が厳しくなる一方、子どもたち自身が興味を示していったのが、各国の国旗だった。



保育環境の設定では、世界の国旗の塗り絵コーナーや世界の本コーナーを作った。子どもたちが興味関心を示すままに、子どもたちの身近なところに、関連する玩具や資料を置き、自由遊びの中で「世界」に触れられる環境になっていく。

子どもたちは多くの国旗の存在を知っていくうちに世界の「国」そのものについて興味関心が及んでいく。そこから派生し、保育士等は、国旗を世界地図や地球儀と結び付けて紹介したり、給食の献立で世界の食事を提供したり、保育の中で子どもたちに世界の祭りの紹介をした。



## 自ら考え作り上げる

「世界の祭り」に興味を持った子どもたちは、「世界の祭り」の1つに「ハロウィーン」が含まれていることを知る。そこで初めて、自分たちのよく知るあの「ハロウィーン」という行事が実はアイルランドを発祥としアメリカを中心に広まった「祭り」の1つであることを知る。このことに興味を持った子どもたちは「10月のハロウィーンの日にはハロウィーンだけでなく世界の祭りをお祝いしたい」と発案。そこから、日ごろの保育で子どもたち自身が興味関心を持ってきた世界の祭りを「ハロウィーンパーティー」で表現することとなった。保育士等は、世界の祭りを更に知ることができるよう、関連する動画や書籍を用意し子どもたちに紹介した。



子どもたちは、特に興味を持った「ランタン祭り」や「傘祭り」の作品を各自作り、園内のパーティー会場に展示した。また、他の祭りも表現してみたいという声も多く寄せられ、5歳児クラス38名が10グループに手分けして世界中の祭りの資料を参考に10の祭りの紹介パネルを作成、展示した。パーティー当日は他クラスのハロウィーンと合流して大いに盛り上がり、自分達で形にしたイベントを、保育士等や他クラスに認めてもらった喜びや達成感を味わった。



## 子どもたちの声に耳を傾け、広げる保育

5歳児クラスは小学校教育の学習の土台となる力の育成を目指し、子どもたちの興味関心を大切にしながら、総合的に生活の学びの基盤となる力を身に付けていくようにすることが重要となる。子どもたちの日々の生活の中には周囲の様々な情報や現象との関わりがある。保育の現場では子どもたちが興味関心を持ったことに対して、更に深めていけるよう環境を整えたり教材を用意したりしていき、子どもたち自身がそこで知り得た知識や感じたこと考えを表現できる場を設け形にしていくことで、遊びの中で様々なことを主体的に遊び学ぶ力を身に付けていくことになると感じた。

参考文献:

「ちいさな芽 基本編」平成25年3月 台東区教育委員会